

経営比較分析表（平成28年度決算）

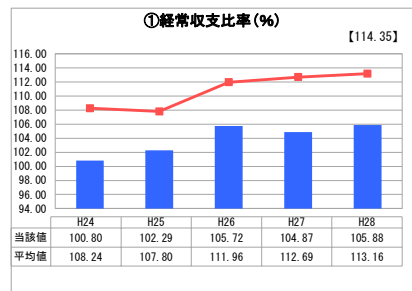
埼玉県 蓮田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	82.53	99.70	2,650	

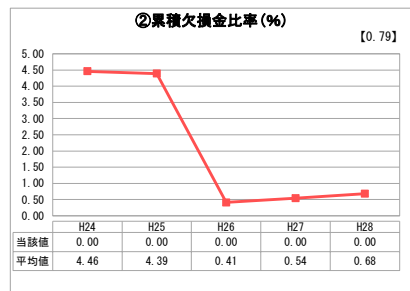
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
62,347	27.28	2,285.45
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
62,124	27.28	2,277.27

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

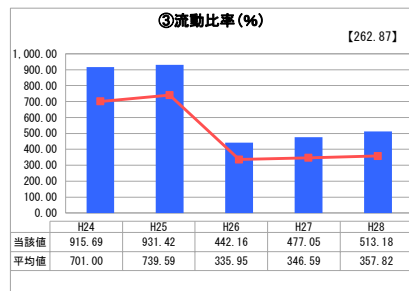
1. 経営の健全性・効率性



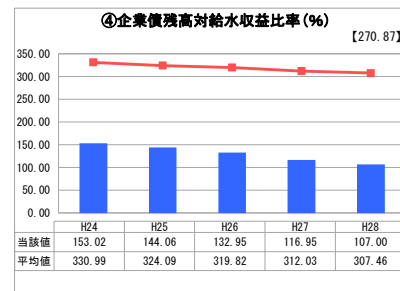
「経常損益」



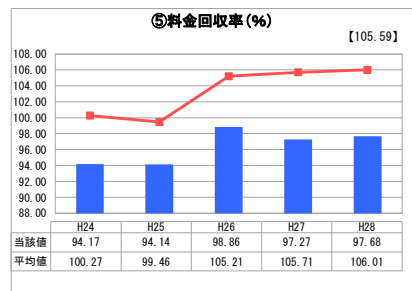
「累積欠損」



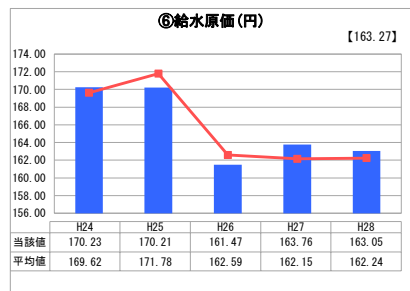
「支払能力」



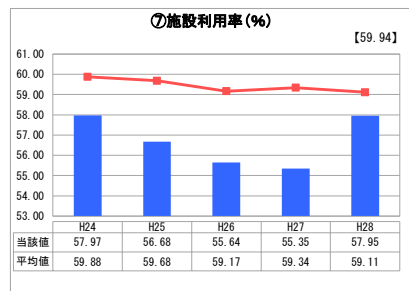
「債務残高」



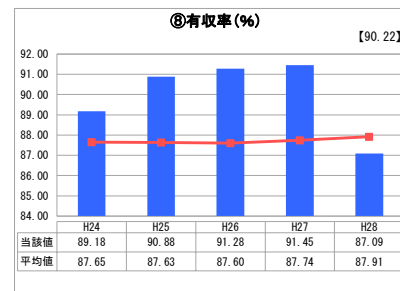
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

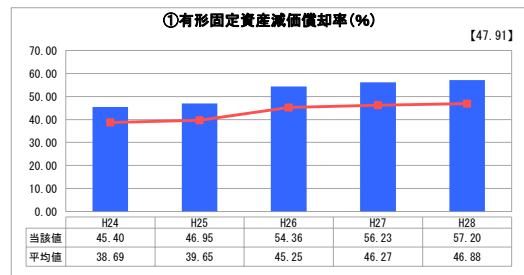


「施設の効率性」

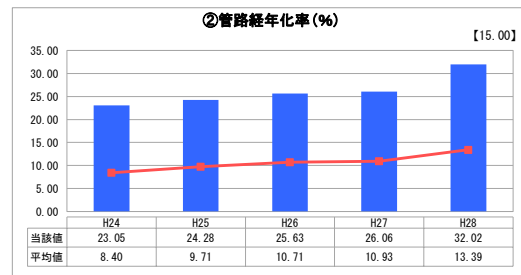


「供給した配水量の効率性」

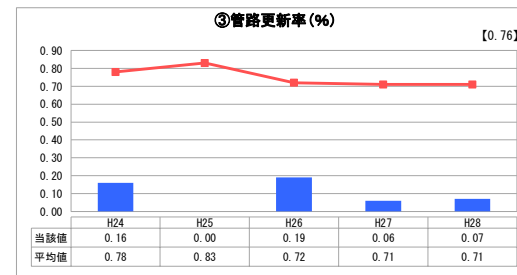
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を上回って推移しており、現時点での経営に問題はないと考えられる。しかし、今後本格化していく管路の更新に多額の費用が見込まれること、100%を上回っているとはいえ類似団体の平均値よりは低いことを考慮すると、より一層の財源確保が必要であると思われる。

③ 流動比率は高い状態を維持しており、短期的な債務に対する支払いは十分に有している。

④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っているが、今後管路の更新を進めていくとも上昇していくことが予想される。

⑤ 料金回収率は100%を下回る状態が続いており経営への影響は大きいものである。今後は給水に係る費用を圧縮していくことに努めることはもちろんだが、料金の改定も含めた検討が必要である。

⑦ 施設利用率は類似団体平均を下回る状態に推移してきている。効率的な施設利用のため、適正規模へのダウンサイジングをしていくことが重要であると考えられる。

⑧ 有収率は近年向上してきたが、平成28年度は落ち込みが目立っている。漏水の早期発見と修繕、また老朽管の更新を積極的に進めていくことで、有収率の向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年率ともに類似団体平均値を上回っており、老朽化が進んでいる状況である。経年化資産の多くは法定耐用年数の短い電気設備や機械設備ではあるが、経年化の進む管路の更新については喫緊の課題として取り組むべきものであると認識している。

③ 管路更新率については類似団体平均値を下回っているが、これはこれまで災害時の給水活動の拠点となる配水池や管理棟の耐震化事業を最優先に対策を行ってきたためである。今後は口径の適正化なども図ることで事業費を縮減しつつ、更新作業を計画的に推し進めていく必要がある。

全体総括

今後本格化する管路の更新事業を考えていくと、現状のままでは更新財源の確保が十分とは言えない状況にあり、費用を捻出し続けることは難しい。そのため、今後は料金改定を含めた様々な財源確保策を検討していく必要があり、水道ビジョン改定版の基本目標である「強靱な水道」を実現するため、管路更新事業を計画的に進めていくことで「持続可能な事業経営」へと繋げていく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。